

我那覇和樹選手 (FC 琉球)より、
JADA アンチ・ドーピング活動の推進・発展に対する寄附

2013年5月27日、我那覇和樹選手 (FC 琉球所属・元サッカー日本代表) より、日本アンチ・ドーピング機構に対する寄附金を頂きました。本寄附金は、木村元彦著『争うは本意ならねど：ドーピング冤罪を晴らした我那覇和樹と彼を支えた人々の美らゴール』 (集英社インターナショナル、2011年12月20日発行) の301頁にて、

本書の収益の一部は、CAS 裁定費用を援助するために再度開設された「ちんすこう募金」の一環として我那覇選手に送られます。・・・

として募金が呼び掛けられ、我那覇選手の勇気ある行動を支えるために募金総額 133万 5,101円が送られことを受け、本募金総額を折半し我那覇選手より、(公財) 日本スポーツ仲裁機構と本機構に対して 66万 7,551円をそれぞれ寄附頂いたものです。

本機構への寄附に際して、我那覇和樹選手自ら、「皆様から頂きました貴重な募金につきましては、二度とこのような事が選手の身に起きないで欲しいという願いを込めて」というメッセージを頂いています。

我那覇選手の固い意志を継ぎ、JADA は今後も世界アンチ・ドーピング規程を遵守し、文部科学省の指導・協力の下、日本のスポーツ関連団体、TEAM JAPAN はじめ全てのアスリート、サポートスタッフの方々が日本のスポーツがクリーンであることを世界に誇れるよう、そしてスポーツの固有の価値を護るのみならず、発展させるための活動を推進していきたいと思っております。

【参照】

木村元彦著『争うは本意ならねど：ドーピング冤罪を晴らした我那覇和樹と彼を支えた人々の美らゴール』 (集英社インターナショナル、2011年12月20日発行)

<http://www.shueisha-int.co.jp/archives/2213> ー集英社インターナショナル

2013.6.3

日本アンチドーピング機構様、日本スポーツ仲裁機構様

2011年12月に出版されました集英社インターナショナル刊「争うは本意ならねど」(木村元彦著)の巻末におきまして、著者の木村元彦様と出版社の御厚意で、募金を呼び掛けて頂き、読者の皆様から沢山の募金(133万5,101円)を寄せて頂きました。

読者の皆さまを始め、木村様、集英社インターナショナルの皆さまの暖かいお心遣いに改めて御礼申し上げます。

皆様から頂きました暖かいお気持ちに対し、私ができる事は、やはりサッカーを通じて恩返しをさせて頂く事以外にございません。

私は皆様の暖かいお気持ちをいただき、今後一層心を込めてサッカーに取り組み精進していきたいと思っております。

今後とも、どうかよろしく願いいたします。

皆様から頂きました貴重な募金につきましては、二度とこのような事が選手の身に起こらないで欲しいという願いを込めて、日本アンチドーピング機構と日本スポーツ仲裁機構に66万7,551円ずつを寄付させて頂きたいと存じます。

どうかよろしく願いいたします。

2013年5月27日

FC琉球
我那覇 和樹 